

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所  
解放新聞和歌山支局

〒640-8314  
和歌山市神前 405-3  
TEL 073-473-2301  
FAX 073-473-2302

発行責任者  
藤本哲史

部落差別解消推進法の  
具体的な施策を求めよう!  
県連旗びらき

2019年度荊冠旗びらきを1月11日、ダイワロイネットホテルでひらき県選出の国会議員や県知事をはじめ、多くの来賓と各支部の同盟員など、200人以上が参加した。

解放歌のあと、主催者を代表して藤本哲史・県連執行委員長から「部落差別解消推進法」(以下「推進法」)成立については、多くの方々にお世話になり、ありがとうございます。これから法を活用するため、具体的な施策を求めていかなければならない。そして、昨年は集中豪雨や台風で多くの人命や私たちの仲間が奪われ、人命について考えさせられた。また、世界人権宣言70年をむかえ、命

を守ろう。戦争をなくそう。と世界が尽力してきたが、なかなか戦争や紛争、差別はなくなりません。そして、差別はネット上にも広がりが、モニタリング事業が実施されたが、差別者への罰則がないため、差別されつづける状態。私たちは、差別をなくすため、支部や市町村行政、民間団体、実行委員会、友好団体などとともに、差別のない社会を構築するため、1年間奮闘していくことを誓う」とあいさつがあった。つづいて、多くの祝辞をいただき、来賓紹介ののち鏡びらきをおこなった。田上武一郎・部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長の発声で乾杯がおこなわれ、歓談・福引抽選会がおこなわれ、池田清郎・県連副執行委員長が閉会あいさつし、閉会した。

【来賓】

●国会議員

石田真敏・衆議院議員、岸本周平・衆議院議員、門博文・衆議院議員、鶴保庸介・参議院議員、二階俊博・参議院議員秘書、木野十三・浮島智子・衆議院議員秘書、福井康司・世耕弘成・参議院議員秘書

●県・市町村

仁坂吉伸・県知事、尾花正啓・和歌山市長、中芝正幸・岩出市長、中村慎司・紀の川市長、田岡実千年・新宮市長、上山章善・湯浅町長、西岡利記・広川町長、奥田誠・上富田町長

○和歌山県

宮崎泉・知事室長、田村一郎・総務部長、藤川崇一郎・危機管理監、山田成紀・環境生活部長、山本等士・福祉保健部長、山西毅治・商工観光労働部長、原康雄・農林水産部長、高松諭・県土整備部長、中西淳・会計管理者、宮下和己・教育長、田嶋久嗣・企画部長、原田武男・人権局長、嶋岡真志

(2ページへ)

ふじ本 まり子

「私は、こんなことにはがんばります」

- 一人ひとりが希望をもつていきいき活動できる学校をつくりまします。
- 人権を大切に作る街づくりをすすめます。
- 安心して子育てのできる社会をめざします。
- 男女共同参画社会の推進に取り組みます。
- いのちをまもる防災計画をすすめます。
- 環境問題に取り組みます。
- 元気で楽しい文化都市和歌山をつくりまします。



ふじ本 まり子  
和歌山県議会議員  
ふじ本まり子・  
県連組織内候補  
(和歌山県議会議員)

- 後援会事務所  
和歌山市杭瀬107-7  
電話 073-472-6666
- プロフィール  
\*和歌山市議会議員 2期  
\*和歌山県議会議員 4期  
\*農林水産委員会副委員長  
\*文教委員会副委員長  
\*人権、少子高齢化問題特別委員会委員長 など

いしもと 一也

「町に元気を、人に優しさを」

- 部落差別をはじめ、女性・障がい者・在日外国人の方などあらゆる差別がなくなるように努めます。
- 住民の皆様と連帯・協働し、福祉・医療・年金等の施策の充実を求め、住民全体の災害対策を推進して誰もが安心して暮らせる町づくりに努めます。
- 青年や女性が未来に展望が持てるよう、地場産業・農業・漁業の振興を図り、就労対策をはじめ生まれた地域で快適な生活が送れるように努めます。
- 子ども達がのびのび育つ環境づくりと、教育の充実に努めます。



いしもと 一也  
和歌山県議会議員  
いしもと一也・県連組織内候補  
(湯浅町議会議員)

- 後援会事務所  
湯浅町湯浅2708-7  
電話 0737-63-0707
- プロフィール  
\*湯浅町議会  
\*福祉産業建設常任委員会委員長  
\*人権推進特別委員会  
\*まちづくり・防災特別委員会  
\*有田衛生事務組合副議長

久々に、歳時記から。2月は中国の故事から「如月」ですが、寒さのぶり返しで、いったん脱いだ冬物をさらに着る「衣更着(きさらぎ)」からきたといわれている。そうはいっても旧暦の話で現在では3月半ばにあたるので、さして、昨年水害や地震などによって多くの生命や生活が奪われるなど「生命」についてあらためて考えてしまおう年だった気がする。▼このことは、自然災害に限らずでロヒンギャ難民(ミャンマー)、ウイグル問題(中国)、中東や北アフリカからEUへ押し寄せる難民、中南米諸国からアメリカをめざす人びとの群れ、枚挙にいとまがないほど争いや貧困、抑圧が世界を覆っている▼さらにトランプ政権の「アメリカ・ファースト」に代表される自国第一主義や民族主義の台頭が顕著になっている。こうした情勢の要因として「新自由主義」「市場経済体制」の破綻、あるいは「資本主義」の暴走という指摘も多い。昨年は「世界人権宣言」70年の節目の年だったのだが、今、差別や排外主義が加速度的に進行している▼歳時記では、やがて万物の芽芽がふく「春」がくるのだが、現実的には、声を上げ行動しなければ、黙っていてもなにもこないと思う。

(S・I)